

# 日本社会をみつめる難民

## —— 今秋スタートする「第三国定住」を問う ——

2010年9月、タイのキャンプで暮らすビルマ（ミャンマー）難民27人が来日します。母国で迫害を受けた難民を避難先以外の国が受け入れる第三国定住制度を導入するのは、アジア初であるとして注目を集めています。ところが当事者である難民がキャンプでどのような生活をし、何を思い、何を期待して来日するのか、私たちはどのくらい理解しているのでしょうか。

第三国定住の制度から思いおこされるのは、かつてのインドシナ難民の定住です。1980年代、日本にやってきたインドシナ難民を1万人受け入れてから、すでに30年が経過しています。第三国定住の受け入れに際し、インドシナ難民の経過を今一度ふりかえることで、今回の難民の受け入れにとどまらず、今後ますます国籍が多様化する日本社会の将来を考えることができるのではないのでしょうか。

また、第三国定住が実施される一方で、日本国内で難民申請をしている人びとの問題も見すごすことはできません。日本の難民申請者たちは、法律、生活、文化などさまざまな問題に直面しています。日本に暮らす難民から直接お話しをうかがい、みなさんにこの問題を考えていただくために今回のセミナーを企画しました。

第1回 2010年10月31日(日) 午後2時から4時 (会場：7号館3階731教室)

### 「第三国定住の功と罪——ビルマ難民の現状」

【講師】 中尾恵子さん(日本ビルマ救援センター)／マ・テンテンウーさん(ビルマ難民)

第2回 2010年11月27日(土) 午後2時から4時 (会場：1号館地下1階15教室)

### 「ベトナム難民のたどった足跡」

【講師】 ファム・ディン・ソン神父さん(在日ベトナム人1世)／トルオン・タン・ハイさん(在日ベトナム人2世)

【会場】 専修大学 神田キャンパス

東京都千代田区神田神保町3-8

\*教室は各回でことなります。上記をご参照ください。

【参加費】 資料代 各回500円

【問合せ・参加申込受付】

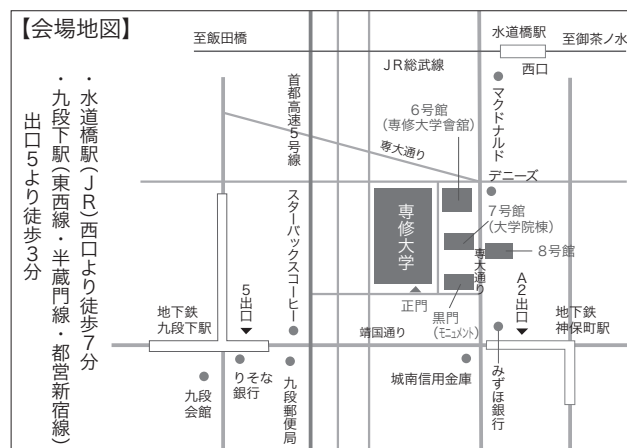
アムネスティ・インターナショナル日本

tel. 03-3518-6777

amnestyinternationaljapan@gmail.com

主催：アムネスティ・インターナショナル日本

東京都千代田区神田錦町2-2 共同ビル(新錦町)4F



協賛団体：移住労働者と連帯する全国ネットワーク、カトリックさいたま教区、カトリック東京国際センター、現代企画室、

難民・移住労働者問題キリスト教連絡会、日本ビルマ救援センター、ビルマ市民フォーラム、ビルマ市民労働組合 (50音順)

関連書籍

『難民への旅』山村淳平著、現代企画室、2010年 定価 2625円

難民とは何か、民族、国家とは何か？ 世界各地の難民キャンプや日本での医療活動をつうじて、難民保護および「人道支援」の本質に迫る。

『壁の涙——法務省「外国人収容所」の実態』「壁の涙」製作実行委員会編、現代企画室、2007年 定価 1365円

日本へ逃れてきたのに、滞在が認められない外国人たち。入管収容施設でいま何が起きているのか。綿密な聞き取りによる徹底調査ルポ。